

ニューヨーク N P T 行動日記

5月1日夕方JFケネディ空港に着いた。夕食後の散歩で出くわしたタイムズスクエアでの爆弾騒動は通行規制の中、何が起きたか知らされず、日本からの友人のメールでやっと真相がわかった。知らずに歩くとは怖いものだ。

5月2日、何事もなかったかのように平穏な朝を迎えた。街中、公園、どこにもシティーランナーを見かけた。朝食のあと、強い日差しの中、街頭署名に取り組んだ。11名の班員が元気良く声かけまわる。



午後1時、パレードの集合場所には、日本各地から参加の1500名が、さまざまな装いで出発を待っていた。これがやがて飛び入りのニューヨーカーも含め、10000人以上の行進となる。中央舞台では、各国からの参加者が、それぞれの平和への思いを訴えた。日本からも「2度と広島・長崎の惨事を繰り返してはならない」と。歌あり、音あり、掛け声あり、呼応する響きあり。。騒然としたしかし思いを1つにした2時間以上の待ち時間でした。



沖縄から参加の集団に出会いました。普天間基地のいかに危険かをアピールする人、県民9万人の基地撤去を求める集会をアピールする人、ブリキと板とパラシュートの糸でサンシンを作って演奏する人、熱い思いが伝わってきます。



真夏のような暑さの中、通りかかったNY在住の高齢者は、インタビューに答えて「どうしてこんなに意義深いことを私たちのk c vも他局も報道しないのかしら。もちろん賛同しますよ、頑張ってくださいね」と励ましてくださる。またドイツから来た若者は、「各国の平和運動と合流できてうれしい、共に歴史の一ページを共有できる」と喜ぶ。

いよいよ3時半行進がスタート。国連に向かって世界の平和を願う声が束ねられ、足音



高く心ひとつに進んでいく。

私たちは伴奏に合わせて歌を歌いながらの行進です。いつの間にか私たちの伴奏者の横には、他国の参加者が飛び入



りで合奏。ほほえましくも素敵な写真です。(林潤さん提供。以下林)

ハマーショルド広場に山と積まれた署名700万筆分(林)

パレードの後方において、私たちは同席できませんでしたが、2010NPT再検討会議のリブランカバクチュラン議長(フィリピン大使)と、軍縮担当のセルジオ・ドゥアルテ上級代表にそれぞれ一箱が手渡され、残りが広場に積み上げられました。笠岡市長も署名した各国市町村首長の署名は、NPT再検討会議2日目の昼休み、議場で提出されました。長い人の列ができていました。